

## 《フランス》

### 1 オワーズ混成事務組合・廃棄物処理センター

調査テーマ：都市環境整備（リサイクル対策）

#### (1) フランスにおける廃棄物処理の取組み

フランスでは、容器廃棄物の収集及び選別は地方公共団体が実施し、それに対する支援及び援助金の支給を認定された生産者責任組織が実施している。

廃棄物処理対策は、1975年に制定された「廃棄物の処分及び資源の再生に関する法律」等に基づいて行われており、地方自治体に廃棄物の収集・処理にかかわる管理を行う責務があるとされてきた。しかし、エコアンバラージュ（P4参照）が設立されると、1994年に「フランスの家庭系使用済み容器に関する法律」が制定され、エコアンバラージュが事業を開始した。この法律において初めて使用済み容器にかかわる製造事業者の責任が明らかとなり、容器包装廃棄物について再利用及び再生利用が進められた。

#### (2) 廃棄物処理の現状

2007年の廃棄物排出量は、8億6,800万トンである。公共団体と家庭から出るごみが年間4,400万トン、産業界から排出されるごみが9,000万トンに対し、建設・公共事業からのごみは3億5,900万トンに上る。農業ごみの排出量は3億7,400万トンであるが、これは主に飼育排水であり土壌に還るものである。

また、全国の廃棄物処理費用は、2006年に116億ユーロ以上に上り（汚水処理費用と同レベル）、これは環境保護にかかわる全国支出の3分の1にあたる。過去15年間で廃棄物処理費用は約3倍に膨らんでいる。

#### (3) エコアンバラージュについて

エコアンバラージュは、フランスにおける家庭系容器廃棄物のリサイクルにかかわる生産者責任を実行するために1992年に設立された組織であり、フランスにおいて最も主要な容器廃棄物のリサイクルにかかわる生産者責任組織。

エコアンバラージュの業務は、国が定めた目標達成のためにコミューンが行う分別収集、焼却・熱回収、埋め立て処理、住民啓発に対して、合意された料率の助成金をコミューンに供与し、また、コミューンが分別収集した容器を素材別にあらかじめ合意した最低価格以上で買い取することを保証するものである。コミューンから引き取った容器は、素材ごとの保証会社を通じて、市場原理に従って材料リサイクルされる。

エコアンバラージュシステムでは、材料リサイクルが容易で、有価販売または無償引き渡しができる容器のみを市町村が分別収集して販売し、そのほかの容器は市町村が焼却・熱回収する。

#### (4) オワーズ混成事務組合について

オンワーズ県のコンピエーニュ市にあるオワーズ混成事務組合は263のコミューン市町村（合計人口約42万人）から構成されるごみ処理を目的として設立された事務組合で、エコアンバラージュ方式を採っている。廃棄物処理センターは、列車による廃棄物運搬のためのプラットフォーム、廃棄物受付センター、分別センター及び焼却処理施設からなる。これらが設置されていることは、フランスにおける廃棄物処理施設の特徴的なところである。2003年の廃棄物エネルギー開発センターの完成式典には、当時の環境大臣であるロスリヌ・バシュロ氏が出席するなど、国レベルからみても重要な施設となっている。敷地面積は約10ヘクタール、総建設費は1億2,000万ユーロ。

廃棄物処理の流れについては、街で回収した廃棄物はトラックにより、組合の地域内にある6つの集結所に運ばれ、輸送用コンテナに収められる。6つのプラットフォームから9割近く廃棄物が列車により処理センターに運搬される。同センター内では、ごみ分別センターにおいて人手や機械によりごみの選別作業を行う。機械作業では、磁石を使ったローラーによって鉄分を引き付けることにより缶などは選別される。また、再利用については、新聞、雑誌等は再び新聞、雑誌の材料となるが、すべてリサイクルできるわけではない。リサイクルできないごみは集結して焼却炉へ回し、850度の高温で焼却される。ごみ焼却により発生した熱は熱交換器により蒸気に変え、タービンを回して発電する。発電した電力は、工場内の設備等に使用し、余った電力は電力会社へ売っている。

## 2 イヴリー・シュル・セーヌ市議会公式訪問

### (1) イヴリー・シュル・セーヌ市の概要

イヴリー・シュル・セーヌ市はパリの南東端に隣接する典型的なパリの衛星都市で、人口は5万6,000人、面積は6.1km<sup>2</sup>。古くはイヴリー (Ivry) という名前だったが、他の地方にもイヴリーという街が複数存在するため、それらと区別するため、1897年に正式にイヴリー・シュル・セーヌ (Ivry sur Seine: セーヌ川の上のイヴリー) と改名した。パリのチャイナタウンに隣接していることから中国系の移民が多く、最近では中国系の会社やアジア系の食品倉庫が多くなっている。

同市では、5年前から市内の一部地域の再開発を計画している。都市計画法に基づく建物の高さ制限があるなど住民との協議事項は多いが、これまで延べ1,000人の住民と協議を重ねている。住宅、緑地、工場地帯など床面積1.3km<sup>2</sup>を最終的に建設する予定であるが、完成まで20年かかると見込んでいる。

現在は整備地区を設定する段階で、土地買収や整備を行っているところであるが、土地整備等については、市が直接担当するのではなく民間の整備会社に委託している。当初予算は概算で6億ユーロ。再開発計画では、多くの公団住宅の建設を予定しているため、市では20年後には人口増加によって7万人規模に達するだろうと予想している。

### (2) 市議会の概要

イヴリー・シュル・セーヌ市議会は議員45名おり、直接選挙により選出、市議会議長が市長となる。現市長はピエール・ゴスナー氏。市議会議員の定数は人口によって決まり、市議会の中には、与党といくつかの野党に分かれている。

選挙は、議員の党派ごとに議員数分の45名の名簿を作って行われることとなっている。原則として、住民は議員に立候補できるため45名集まれば、だれでも選挙に参加することは可能となっている。法律に基づき、男女平等の観点から、男女交互にリスト（例えば、リストの1番目が男性の場合は、2番目は女性、3番目は男性）を作成することが義務づけられている。議員の任期は6年で、同市議会に関しては伝統的に革新系の議員が多数を占める。議員の多くは本業を別にもっていてそこで収入を得ており、公職での報酬がメインではない。

### (3) 都市景観と住民の社会参加政策

イヴリー・シュル・セーヌ市では、世界の衛星都市の傾向に多くみられるように住民が住んでいる街に関心が少なく、それを解消するために、行政が先頭に立って魅力あるまちづくりを創り上げようとしている。

文化歴史遺産の街パリとの一体化を目指して、風車、教会、セーヌ川に架かる橋などを歴史ある構造物を市が歴史的モニュメントに指定し、その周囲に高さや建築の意匠などについて規制している。その一方で、街の中心には、前記の都市計画のマスタープランのもと、市民の憩いの場となるような緑多い公園・広場を設け、その周囲には近代的な環境に配した商業ビルを建設している。

また、ゴスナー市長はみずから「フォーラム 2009」というプロジェクトを立ち上げ、市民に向かって数々のイベントや集会を仕掛けている。忌憚のない市民の意見をくみ上げ、住民サービス、雇用と教育の機会などに役立てている。雇用・教育側も巻き込んで連帯を強め、不安や迷いを持つ住民を支援している。

## 《スウェーデン》

### 1 スtockホルム市国立公園・ユールガーデン視察

調査テーマ：自然環境保護

#### (1) スtockホルム市の国立公園の概要

スウェーデンには 28 の国立公園があるが、このうちストックホルムの国立公園は、国内で唯一の都市国立公園として認定を受けている。この公園は、ユールガーデンを含む 6 か所の地域の総称で、北から南まで長さが 13 km にわたる。全体の面積は 27 km<sup>2</sup> で、このうち陸の部分が 19 km<sup>2</sup>。

同公園は、「豊かな自然に囲まれたのどかな生活環境と、芸術活動も盛んな文化的環境が程良く併存した公園」を目指している。16 世紀からスウェーデン王室が住んでいた場所として歴史的な背景があり、ほとんど手を加えていない自然の中に歴代の王が築いた宮殿や王室などが静かに点在している。

この地域においても過去には都市開発の波の危機にさらされた経緯がある。人々は自然環境を保護する運動を起こし、市民団体、自治体、政府の間で取り決めがなされた。この地域の水と土地利用を制限して、自然、文化、歴史的な価値を保全する保護法が成立した。1995 年 1 月 1 日に天然資源法が改正され、その結果、世界で初めて首都の国立公園、ナショナル・シティー・パークに指定された。現在、同公園の年間利用者は 1,000 万人に達している。

同公園の維持管理を行うのは、公の機関であるエコパーク協会。1992 年に 22 の組織によって設立され、現在は 50 の組織で成り立っている。公園の維持管理費は、スウェーデン王家の費用で賄われている。国から都市国立公園に 200 万クローネの補助金が支出されているが、主にインフォメーション費用に充てられている。

ユールガーデンは、ストックホルムの東部、シェップスホルメン島のさらに東にある横長の島。「動物の庭」という意味の名前で、17 世紀後半、カール 11 世がここを王室の狩猟場として定めたことに由来している。現在でも自然が多く残され、約 250 種の野鳥など多様な生物が生息している。ほとんどが緑豊かで静かな公園になっており、ジョギングコースやピクニックスポットなど市民の憩いの場として親しまれている。

### 2 スtockホルム市ハンマビー臨海地区視察

#### (1) ハンマビー臨海地区プロジェクトの概要

現在、ストックホルムで進められている都市再開発地区がハンマビー臨海地区である。この臨海地域は古くからの港湾工業地帯であったが、工業からサービス業への国家経済が移行する中で